

## 西域出土梵本法華經の一斷簡に就いて

眞 田 有 美

### 一

一九〇二年より一九一四年まで前後三回に亘つて行はれた大谷探検隊の將來品の一部及び其行程については、既に西域考古圖譜・西域記等に報告されてゐる。その將來品中には中亞出土の梵文佛教經典が含まれてゐたこと、及び、その中には法華經の斷片が多數あつたことは注目に價する。新西域記下卷附録この「關東廳博物館大谷家出品目錄」に依ると第六八七號—第六九七號に「梵字法華經斷片」として各々の大さと斷片の箇數を記し、合計二百七十一箇あることを示してゐる。然し、その内容については何等記してゐない。

一九二三年頃、上海の無憂園で大谷探検隊の將來品を調査したミロノフ博士 (N. D. Mironov) の記録によると梵文法華經神力品に屬する九斷片と藥王品の一斷片があつたと言ひ、此等の大さ内容性質等については少しも説明してゐないから、その詳細を知ることが出来ない。然し、同博士が後に發表した論文によると、大谷探検隊 (一九〇九年—一九一三年) の橘瑞超師によつて將來せられた西域梵本法華經は五十六の斷片よりなり、其等の寫本は三十四に分類整理せられてゐて、書體は直立グプタ文字 (Upright Gupta) であるが、異つて書體で記されてゐるから、A・B・C・Dの四種に分たれてゐると言ふ。

A本は白褐色の楮紙に書かれてゐて、完本がないから想像に過ぎないが、多分その大さは  $40 \times 14$  cm であつたらしく、各紙の左側中央に直徑 24 cm の紐穴があり、各頁十一行一字の大きさ  $0.5-1$  cm (四字約 3 cm) である。この寫本は二十五の小斷片に分れてゐるが、十二の部分に整理されてゐる。(No. 1. 1-12.) これ等はトルファン (Turfan) の近くのトゥン (Tuyuk-kon) から將來せられたものの一部分であると言ふ。其中には方便品・譬喻品・人記品・法師品・安樂行品・踊出品・分別功德品・法師功德品・陀羅尼品・嚴王品の各品が含まれてゐる。このA本の書體は中亞系グプタ文字と言ふより印度系グプタ字に近いもので、其中に出て来る十六の字母について其特長を比較して見ると、其中の十三のバワー寫本 (Bower MSS.) 又はウエバー寫本 (Weber MSS.) に近似してゐて、他の三はマッカートニー寫本 (Macartney MSS.) に一致してゐる。此等の點から、A本の筆寫年本を五世紀の中頃と推定してゐる。

B本は二十八斷片 (Nos. 12-38) あり、A本より、いくらか柔かい白褐色の紙に書かれてゐて、大きさ  $32 \times 12.7$  cm、紐穴の直徑  $3-3.2$  cm、いくつかの斷片の表面に番號が記してあつて、その或ものには「200」の番號がある。各紙十行、一字の大きさ  $0.5-0.7$  cm

である。此等の斷片中には譬喩品・信解品・化城喩品・授記品・人記品・法師品・見寶塔品・分別功德品・法師功德品・常不輕品・陀羅尼品・藥王品・妙音品・普門品がある。此B本中の普門品は偈頌を全く缺いてゐる。此普門品關係のものは三斷片あるが、其等はスライン博士將來のファルハート・ベーク (Farbat-Beg) 本に近い色々の特色を持つてゐる點から大體五世紀終頃のものとして推定される。

C本は三斷片 (Nos. 29—31) からなり、あまり小斷片である爲、その大きさを記し得ないが、用紙は非常に薄い紙であつて、文字の大きさは 0.5 cm 位である。書體は大體B本のそれに近い。此斷片中には法師品・分別功德品がある。

D本は七斷片 (Nos. 32—33) あつて此中初の六斷片は恐らく同一寫本であつたものらしく、大きさは 36×11.6—12 cm。此等は常不輕品・神力品に相當し、此の部分はカシュガル本に缺けてゐるから、或は此等の六斷片はカシュガル本の一部であつたのではないかと言ふ。第七の斷片は妙音品に相當し一紙八行、前の六斷片とは違つた寫本の一部である。此D本の書體は能書體直立グプタ文字 (Calligraphic Upright Gupta) で上述のA・B・C三本の書體より後代のものである、大體七世紀頃と推定されてゐる。

以上、新西域記中の大谷家出品目録とミロノフ博士の報告によつて、大谷探検隊將來の西域本梵文法華經が如何なるものであるか、略々知ることが出来る。是等の貴重なる資料が吾等學徒の見ることの出来ない状態にあることは残念であると言はねばならぬ。

## 二

大谷探検隊の將來品として、西域考古圖譜等の中に報告されてゐるものの中、未だ不明の文獻として殘されてゐるものが少くない。

此處に報告しようとするものも、その一である。それは、西域考古圖譜下巻、西域語文書(29) 1、梵文佛典斷片(和圖) 2、同上裏面とあるもので、これは梵文法華經の斷片であつて妙音品の終から普門品の初 (Kern Nanjo ed. pp. 435, 1. 1—438, 1. 6) に相當する。

大きさは約 23.3×12.2 cm あつたらしく斷片の中央に紐穴あり、一紙十行、用紙については説明がないから不明であるが、出土地は和闐である。此斷片は右約三分の一と表面の上部三分の一近く缺損してゐるため、表裏とも三行を殆ど缺いてゐる。書體は直立グプタ文字でトーマス博士 (F. W. Thomas) によつて研究された西域本法華經書量品・分別功德品の斷片 (Hoernle MS. No. 142. S. B. 53) 及び日藏經の斷片 (Hoernle MS. No. 143a. S. B. 2. Astrological text.) に非常に似てゐる。紙面の都合上字母について詳細な説明は省略するが、此斷片の書寫年代は大體五世紀の後半頃と推定される。圖譜の寫眞は(1)と(2)とが逆となつてゐる。次に寫本の本文を掲げる。(トランスクリプトは出来る限り原文に忠實にした。〔〕内は筆者の添加を、□は不明の字母を示す。)

1 (Kern & Nanjo ed. p. 435, 1. 1.....)

1 dan sa.....

2 bodhisatbo.....ta-vāṇeya.....

3 sabhānāṁ.....tathāgata-vāṇeya.....

4 ti yāva porinirvāṇa-vāṇeya □ sabhānāṁ parinirvāṇa-māna ādarga[yaṭi].....

5□ [Pa] dmagrī bodhisatbo Bhagavantam etad avocāt

□ avarukta kuṣalamāṇo Bhagavaṇi Gaga[rasavaṇi].....

- 6□ gathā Gagarasvareṇa bodhisatvena ettakāṇ satthā vinitāṇ  
evam-ukto Bhagavā.....
- 7 [sa]mādhī Sarvaparipasanādarṇa nāma eba samādhī  
attha samādhīya ssthiatthā Gagarasvareṇa bo[dhisatvena]  
.....
- 8 [pari]varte niddiṣṭiyante ye te Gagarasvareṇa bodhisatvena  
sārdḍha tāttakā bodhisatba-sahasrā.....
- 9 [a]bhūṣit dhārani prattilābhasam-abhūṣit Atha khalu  
Gagarasvaro bodhisatba Bhagavatāḥ gākya.....
- 10 [tathā]gatasya dhātustūpe pūjān kritthā punar-api prāk-  
krīṇāṭā prakaṇḍipayan tebhīḥ ksettrebhīḥ pravaraṇeyante  
.....
- II
- 1 buddhaḥsettraṇ prakkerranto sārddhan tebhī caturāḡṭti  
bodhisatba sahasrebhīḥ punar-api tanī kama.....
- 2 me Bhagavān Sahnāyān lokadhātāu satthānām-artthan tasya  
ca Bhagavatāḥ Prabhūtaratnasya tathā[gatasya].....
- 3 [dri]ṣṭān so ca Bhāṣāyarājā bodhisatbo vīryabalavega-  
prāptō so ca Pradānaḡuro bodhisatbo dṛiṣṭō.....
- 4 [sarvaparipasan]darṇanāyān samādhīya prattilābhamab-  
hūṣit Imasmiṇ ho punar Gagarasvareḡagamane.....
- 5 [dharma]kṣaṇti prattilābhām-abhūṣit Padmaḡṛigarbhasya  
ca bodhisatbasya Saddharmapāṇḡdarī[kasya].....
- 6 [Gagarasva]ra parivarto nāma ekaviṇḡatimaḡ XXI.....  
Atha kha[lu].....
- 7 [da]kṣiṇa jānunaṇṇalaṇ pūṭhiyīyam pūra[t]i[ṣiṇ]āpayittha  
yena Bha[gavān].....
- 8 te Avalokī.....
- 9 gatasahasrā.....
- 10 khāṇopa.....
- この寫本にキール梵本を主としたケルン南條本との相違點を對  
比して其の如くである。
- Ohtani MS. Nepal MSS.
- 1 1. 4. yāva yāvad  
ātmāna ādarṇa..... āmānām dāṇayati  
1. 5. avarukta avaropīa  
1. 6. Gagarasvara Gadgadasvara  
ettakāḥ iyantaḥ  
1. 7. attha samādhīya st asmiṇ samādhāvavasthitena  
hahitthā yāni  
1. 8. ye te caturāḡṭti  
sahasrā kotinayutasahasrā  
1. 9. abhūṣit abhūt  
1.10. tathāgatasya dhā- tathāgatasyārhatāḥ samyak-  
tustūpe pūjān kritthā sanubuddhasya dhātustūpe vip-  
pūra- punar-api prākkr- lān viṣṭīṇam pūjān kritvā.  
raṇā punar-api saparatnamaye kū-  
tagare bhīruḡya  
prakaṇḍipayantebhīḥ ksetr- prakāṇḍipbhīḥ ksetrāḥ pra-

rebhñ pravarṣayante……

varṣadbhñ

II 1. 1. tebhi

tais

bodhisatva sahasr-  
ribhñ

bodhisatvakoṭṭhayaṭaṭasa-  
hasrāñ pavivṛitañ puraskṛitañ

1. 2. sabbān arthān

savāthas

bodhisatva

bodhisatva mahāsatva

1. 4. dāraṇāyān sammā-

dāraṇasya sammāñeñ prati-

hiyapratilābham ab-

labho 'bhū.

hūṣit.

asmin

inasmim

asmin

ho

khātu

Gaḡarasavarāgamane

Gadḡadasavarasya bodhisat-

ho

vasya mahāsatvasya gamanā-

gamanaparivarte

gamanaparivarte

1. 5. Padmaṣṭṭiḡarbhasya

Padmaṣṭṭiyaḡ ca bodhisatvasya

ca bodhisatvasya

mahāsatvasya

1. 6. Saddharmapūñḡa-

Saddharmapūñḡarika

rika

Saddharmapūñḡarika

ekavimḡatimañ sa-

trayovimḡatimañ,

māpāñ XXI

caturvimḡatimañ Ch.

1. 7. jānumanalam

jānumanalam

以上對照によつて知られる様に此斷簡はネポール本に比して簡略である。即ネポール本には形容詞的字句が著しく増加されてゐる。特に 'etaka (I, 1. 6.), tāttaka (I, 1. 8.) の様な佛教梵語特有の語形を用ひてゐること。ネポール本に妙音が Gadḡasvara となつ

てゐるのが、全ひ 'Gaḡarasvara と俗語形を取つてゐること。ネポール本にある Mahāsatva の語が全く用ひられてゐないこと。ネポール本の abhūt 'ā abhūṣit (√bhū aor. 3. Sing. p.) となつてゐること (I, 1. 9.; II, 1. 4, 5.) 等が注目される。又、妙音品の終に「妙音品」と名ぐる第二十一といつて、更に「二十一」の數字を記してゐる。これは此寫本の妙音品が第二十一品であることを示してゐる。多くのネポール梵本の中ケンベリヤチ B 本だけが第二十四品となつてゐる外は何れも第二十三品となつてゐる。漢譯では法護譯は第二十二品・笈多譯は第二十三品・羅什譯は第二十四品となつてゐる。此等の諸本と全く違つた品數を示す此斷簡の存在は法華經成立史考究の上に貴重な新資料を提供するものと言へる。

1 卽ち A list of Fragments of Brahmi Manuscripts belonging to Count Ohtani. と題するもの。トカラ語・梵語・ウイグル語等の寫本斷片類の簡單な目錄である。

2 N. Mironov, Buddhist Miscellanea. (JPAS, 1927, pp. 241—)

3 本田博士還曆記念「西域出土梵本法華經」解説参照。

4 漢譯の法護譯 (大正 IX, p. 128b, 1. 18—c, 1. 20.)。羅什譯

(大正 IX, p. 56b, 1. 7—c, 1. 6.)。笈多譯 (大正 IX, p. 191a,

1. 29—b, 1. 26.) と相當なる。

5 R. Hoernle; Manuscript Remains of Buddhist Literature

found in Eastern Turkestan. Plate. XX, No. 2. & No. 3.

壽量品一分別功德品の斷片については「西域出土梵本法華

經」寫眞 (No. 63, 64.) 参照。

(昭和二十八年度文部省科學研究助成金による研究成果の一

部)

西域出土梵本法華經の一斷簡に就つて (眞田)